

2022 年度北海道 YMCA 事業報告

理事長 武藏 学
常議員会会長 大町 信也
総主事 秋葉 聡志

多くの会員並びに関係者の方々にご尽力ご支援をいただき、2022 年度事業を無事に終えることができましたことを心より感謝申し上げます。

2022 年度は、「中期計画 2023（2020～2023 年度）」の 3 年目となり、2020～2021 年度の事業評価に基づいて計画項目を削減・修正し、先行きに不透明感の残る中でのコロナ禍への対応と、ポストコロナを見据えて、現行事業の持続可能性を見極めつつ新たな展望と事業変革の方向性を探りました。また、日本 YMCA 中期計画に示された新たな視点とコンセプトを視野に入れつつ、地域社会に果たすべき YMCA ミッションの具現化に取り組みました。

事業は前年の回復傾向から一転伸び悩み、北海道 YMCA 全体として経常収益・費用は前年並みでしたが、わずかに減収減益となり、経常増減額は当初黒字計画から赤字となりました。北見ブランチは減収減益となり黒字幅が縮小しましたが収支相償を維持しました。一方、札幌ブランチは増収増益となり赤字幅が縮小、とち帯広ブランチは減収減益となり赤字幅が拡大し、いずれも収支相償とはなりませんでした。

事業計画の各領域について、YMCA ミッションの具現化では、SDGs との関係づけを意識しながら、特に「平和と公正」・「健康的な生活」・「質の高い教育」を共通テーマとしつつ、様々なプログラムやイベントに取り組みました。

人材の開発・育成、働き方改革の推進については、変形労働時間制の効果的な運用を図ると共に、特に職員のメンタルヘルスに配慮した働きかけを行いました。

財政の健全化へ向けた事業構造の変革では、各ブランチにおける収支相償の事業構造を構築するべく努力しましたが、コロナ禍の影響からの回復は足踏みしました。

会員活動の活性化については、様々な研修・集会等がオンラインシステムで可能となり、対面と併用したハイブリッド方式での活動が増加し、参加機会が拡大しました。また、役員・委員等の改選期となり、新たな体制がスタートしました。

将来計画の遂行については、札幌ブランチの会館構想が建設費の高騰から、現在地建て替え案から現会館リノベーション案の検討へと移りつつあります。また、北見ブランチは認定こども園認可へ向けて具体的な作業を進めることとなりました。とち帯広ブランチは、保育事業の安定化を図ることに加え、帯広市内での活動拠点の開発を検討することが求められています。

（公益目的事業）

1. ウェルネス事業

(1) スポーツ活動

札幌ブランチのウェルネス事業は、継続して幼少年事業と成人事業を一体的に管理運営することに努めました。幼少年事業ではここ数年のプログラムの刷新に加え、コロナウイルス感染症の落ち着きもあって、アクアティック、フロアクラスともに 2 年続けて前年度よりも登録会員が増加し、年度末まで維持することができました。また、水泳発表会や室内サッカー大会、キッズダンス発表会など様々なイベントが復活して開催できるようになりました。成人事業はプログラムの改廃により運営の効率化を進めましたが、フィットネス会員の減少が続きました。ウェルネス事業全体では前年に対し収支バランスが改善しました。

北見、とち帯広ブランチでは、ウェルネス専従スタッフが不在の中で、非常勤講師を中心にプログラム運営を進めており、コロナ禍による利用施設の休館もなく、一年を通して安定した運営が

でしたが、クラス登録者が減少しました。北見ランチでは、水泳記録会を北見市温水プールで復活開催することができました。

(2)地域支援活動

コロナ禍の中にあっても、感染症対策をしっかりと取りつつ、可能な限り地域支援活動に取り組みました。

障害児プログラム支援のために開催している「チャリティーラン」は、昨年に続いて集合式ではなく、どこからでも参加できるように、走る場所・時間帯を自分で決め、結果を SNS に投稿する方式で 5 月～6 月にかけて実施しました。北見ランチではチミケップキャンプ場を活用した森林ウォーキングを実施し、とかち帯広ランチでは幼保園卒園生の小学生がチームを作って参加しました。また、秋には賛助後援会と共催して札幌でチャリティーパークゴルフ大会を実施しました。

例年 6～7 月に実施している全国 YMCA 協働の「水の安全キャンペーン」は、水の安全ハンドブックを会員に配布し、札幌ランチプールでは水の安全に関する啓発活動「ウォーターセーフティデー」を復活実施することができました。また、市内小学校 4 校からの依頼を受け、出前水泳授業と水の安全教室を実施しました。加えて、冬には小学校 2 校の要請に応え、初めてスキー指導者を派遣しスキー授業に協力しました。

ウエルネスセンターと札幌ワイズメンズクラブが協働して、1 年を通じて、ダブルダッチ、トラポリン、ヨガ、ボルダリング、ブラインドサッカーなど、親子スポーツ体験会を積極的に展開しました。

9 月には、札幌ランチの施設を活用したプログラム体験型の国際協力チャリティーイベントを開催し、様々な体験活動を通じて国際協力募金を集めることができました。

12 月には、Amazon による社会貢献活動の一つである「ほしいものリスト」を活用したチャリティーキャンペーン「Amazon『みんなでサンタクロース』」に参加し、各地から多くの物品が各ランチに届きました。

2 月には全国 YMCA との共同プログラム、いじめ反対キャンペーン「ピンクシャツデー」を各ランチで実施し、とかち帯広ランチでは子どもをいじめから守るための CAP ワークショップを開催しました。北見ランチでは、北見市小学校長会でアピールすることができ、今後の学校現場での広がりを期待しました。

(3)野外教育活動

札幌ランチのキャンプ、スキースクールは、コロナ禍の中での適正規模を考慮して企画・募集し、参加人数は前年よりも増加しましたが、コロナ前の水準には及ばず依然回復が遅れています。日常野外活動クラブは、前年度からの好調を維持し、年間を通じて目標人数を維持することができました。活動では、札幌西ロータリークラブ会員の協力により、9 月例会で小樽港周辺でのヨットクルーズを体験することができました。また、野外事業の縮小をカバーする新たな取り組みとして、プログラミングクラスを開設し、年間を通じて取り組みました。

北見ランチでは、チミケップキャンプ場を会員向けの野外レクリエーション、デイキャンプ、1 泊キャンプ等で活用しました。シーズン前にはキャンプ場整備のボランティアワークを実施し、多くの会員親子やワイズメンズクラブ会員が参加しキャンプ場整備に汗を流しました。

スキースクールは、札幌・北見ランチで実施しましたが、コロナ禍の影響と年々進む雪不足により、冬休みコースの参加者が縮小傾向となっています。札幌ランチでは春スキーに広島 YMCA との合同宿泊コースを企画することができました。

季節の特別プログラムとは別に、各ランチの幼稚舎、保育園、アフタースクールなどの全日制事業では、それぞれに会員を対象としたキャンプ、スキーなどを実施し、豊かな体験活動の機会を提供しました。

外部団体への協力として、その創立から深い関わりのある北海道キャンプ協会の 30 周年記念事業に全面的に協力しました。

(4)リーダーシップ育成活動

地域におけるユースボランティアリーダーの育成は、YMCA 誕生の歴史が示す最も重要な使命として位置づけられている事業といえます。YMCA の様々な活動に参画することにより、青年がリーダーシップを身に着け、将来、社会におけるリーダーとして活躍し、社会貢献を果たしていくための実践トレーニングの場として捉えています。2022 年度もコロナ禍の影響が続き、札幌ブランチでは、特に野外活動リーダーの募集に苦労するとともにリーダー会活動も停滞し、トレーニングを実施することができませんでした。コロナ禍による停滞が3年続き、経験リーダーが少ない状況の中、リーダー活動の継承をどのように行っていくのかが大きな課題となっています。

スタッフ養成では、4月の北海道YMCA 職員全体研修会で「子どもの成長とYMCAの働き」をテーマに文部科学省のレポートに基づき、子どもの体験活動の現状とより効果的にするための取り組みについて理解を深めました。また、管理者養成のための日本YMCA 研究所主催の長期研修「ステップII」にとかち帯広ブランチの管理者を派遣し、留守中は他ブランチの管理者が交代で守り支えました。

2月のピンクシャツデーキャンペーンに関連して、全道職員研修を実施し、特に「性の多様性についての理解と子どもへの対応」について、講演を通して学びを深めました。加えてとかち帯広ブランチでは、CAP ワークショップを教職員・保護者・年長園児を対象に個別に実施しました。

ウエルネス事業関連では、北見・とかち帯広ブランチのウエルネス専従スタッフが不在であることもあり、ブランチを巡回して行っていたウエルネス指導者研修が本年度も実施できませんでした。一方で、全国的な担当者会議や研修、集会のオンラインによる開催が増え、職員の参加の機会が増えました。

2. 国際理解・国際協力事業

(1)国際交流活動

国際的なネットワークが国際協力団体としてのYMCAの大きな特徴であり、国際事業は必ずカウンターパートとなる現地のYMCAと協働する形を取っており、相互のニーズに対応していることを原則としています。

夏のベトナムボランティアワークの旅は、現地パートナーのPHDが政府からベトナムYMCAとしての活動も認められ、YMCA 同士の活動となりました。ボランティア派遣は昨年に続けて中止となりましたが、現地の教室建設は資金を送りベトナムYMCAに建設を進めてもらうことにしました。国際情勢の変化による建設費の高騰により、教室建設費もこれまでの7,000ドルから9,200ドルへと上がりましたが、募金で賄うことができました。教室贈呈式は9月に現地で実施し、北海道からも関係者がオンラインで参加することができました。国際協力委員会では、コロナ禍を機会に「ベトナムボランティアワークの旅ガイドライン」を策定し、今後、本ガイドラインに沿ってプロジェクトを進めていくことにしました。

また、リアル開催となった道内の国際協力関係イベント、「フェアトレードフェスタ in さっぽろ2022」、「北海道国際協力フェスタ」に参加し、ベトナムグッズの販売、ベトナムボランティアワークの旅の広報に努めました。

中国成都YMCAとの交流は、コロナ禍の影響により具体的に進みませんでした。時宜に応じてメールによるコンタクトを続けました。

チミケップキャンプの海外リーダー、指導者の受け入れは、渡航制限のため本年度もすべて中止しました。

(2)語学教育活動

国際協力・国際交流活動を行うにあたり、相互コミュニケーションの手段となる英語教育を幼児の段階から行いました。様々な国際活動や国際会議に主体的に参加し意見を述べ、協議しながら共

に生きることを実践できる青少年の育成が使命であることを覚えつつ、保育プログラム・アフタースクール登録者の実習を中心に、YMCAの特徴を生かしたYMCAらしい英語教育を目指しました。昨年度に引き続き、各ランチで小学生英語暗唱大会を実施しました。

3. 青少年支援事業

(1) 幼児保育活動

札幌ランチでは、幼稚舎は目標人数を維持しましたがプレスクールが減少しました。プレスクール・幼稚舎の一体的管理・運営に向け、管理者の体制を刷新しましたが、現場担当者間の協力関係が十分ではなく、さらに次年度へ向け改善に着手しました。また、札幌市認可外保育施設認証施設としての事務処理の為、事務局体制を整えることに努めました。

北見ランチでは、小規模保育事業が安定的に園児を確保しており、収支相償の構造を維持しています。北見市からの要請もあり、後期から定員増を計画していましたが、年度途中での保育士の退職があり、体制が整わず実行できませんでした。ここ数年コロナ禍の為に休止していた年度末の保育園 joy 年長児対象の卒園旅行を再開し、休止した過去にさかのぼって対象を拡大して実施しました。

とかち帯広ランチは、保育士の体制・質ともに安定化が図られましたが、小規模保育園は年度を通じて定員には至りませんでした。数年前からワイズメンズクラブと協働して、園児や地域を対象としたリトミックを継続して実施しています。

(2) アフタースクール活動

アフタースクールは、全国YMCAのブランディングにおける重点事業領域「子育て・子育て領域」に位置付けられ、全国的にも重点強化事業の一つとなっています。保育を必要としている家庭の期待に応えるプログラムは、これからもニーズが高まると考えられます。

各ランチで行っているアフタースクールは、より多くの児童の居場所となることを考慮し、厚労省モデルの放課後児童クラブには移行せず、自主運営のチャイルドケアプログラムとして保育事業と連続的・一体的に運営にしています。札幌ランチでは将来的な会館構想の検討の中で放課後児童クラブと自主運営クラブの併設も視野に入れて検討を続けています。

札幌、北見ランチのアフタースクールで伴走サポートシステムの運用を続け、エピソード記録を蓄積し、保護者面談に向けての準備を進めました。

(3) 発達支援クラス活動

近年、発達に課題のある青少年が通常学級、通常プログラムに参加することが一般化し、YMCAにおいても部門間の連携を図ってスタッフの対応力の向上に努めてきました。児童デイサービスセンター「さんかく」では、児童発達支援連絡協議会、市・道などの研修への参加や内部研修により、療育の新しい取り組みについての情報を収集しながらスタッフの提供療育の質的向上を図るとともに、第三者委員会の開催により、事業所としての信頼性の向上を図っています。また、従たる事業所としての新規事業所の設置について検討作業を進め、次年度より区分分離による現行施設内での新規事業の開設を進めることにしました。

ウェルネス系の発達支援プログラムでは、水泳を中心に幼児から成人年齢の会員まで幅広い年齢層が参加しており、マンツーマン指導とグループ指導の2つのクラス分類で実施してきましたが、本年度をもってボランティアによるマンツーマン指導が終了しました。また例年11月に行ってきた水泳発表会を2年ぶりに復活開催することができました。

(4) 幼児・少年等文化教養活動

文化教養活動は、単独プログラムとして参加している会員の他、アフタースクールの実習や幼少体育活動、語学教育活動に参加する会員の複数受講プログラムとして付加価値を高める活動となっています。体育、語学に加えて、ピアノ、造形絵画、ギター・ウクレレ、将棋、お花、パソコンな

ど幅広い学習機会の提供を図っていますが、コロナ禍の影響は比較的少なく安定した登録者数となりました。札幌、北見ブランチャでは感染対策をとりつつ、ピアノ発表会を実施しました。

また、Amazon ジャパンがスポンサーとなり日本 YMCA 同盟と連携して全国的に始まったプログラミング教室「Amazon Future Engineer」に継続して取り組み、札幌ブランチャ野外教育事業の一部としてプログラミング教室を年間クラスとして開設しました。また、連携プログラムとして夏期キャンプでプログラミングキャンプを企画・実施することができました。

(5) 専門学校

2023 年度以降の学生募集が停止となり、最後の入学生を迎えました。カナダ語学研修はコロナ禍により渡航の目途が立たない状況が続き、カナダ研修に代わる特別授業として、イングリッシュ・セッション 2022 を行い、15 ヶ国の留学生・外国人講師との英語によるワークショップや 10 ヶ国の YMCA を繋いでのコースによる YMCA サミットなどを実施しました。11 月には例年実施している全学生による英語スピーチコンテストを行い、優勝者を専門学校関連の全国大会に送り出しました。また、2023 年度のカナダ語学研修の実施に向け、カナダ・モントリオール語学学校の現況把握のために担当者を派遣しました。

(相互扶助事業)

1. その他の事業

(1) 貸館、物品販売、自販機手数料等事業

地域の要請により可能な限り施設、駐車場を提供する他、全国のブランディング作業に合わせ、参加会員がプログラムに参加するために必要な教材を常に提供、販売できるように体制を整えました。

(管理部門)

(1) 法人業務

「北海道 YMCA 中期計画 2023」の 3 年目の年度でしたが、コロナ禍の状況を考慮し計画項目を削減して取り組むこととしました。

SDGs への取り組みは、特に「平和と公正」・「健康的な生活」・「質の高い教育」を共通テーマとし、全国 YMCA 共同のウクライナ支援募金活動の展開、創立記念日集会における平和をテーマとした講演会の実施、質の高い教育を目指しての全道職員研修会での体験活動の価値についての学び、コロナ禍での健康の維持に向けた親子スポーツ体験活動の企画実施、ベトナムでの教室建設の資金提供の継続、フェアトレードフェスタさっぽろへの参加等、従来行っていた活動のテーマに一層 SDGs を意識して取り組みました。

職員の働き方改革では、変形労働時間制の理解と運用が定着し、勤怠管理も確実に became。衛生委員会を定期的に開催し、職場環境の改善に努めました。また、継続して職員のストレスチェックを全ブランチャに拡大してフルタイム職員を対象に実施し、自身によるストレスコントロールを奨励しました。

ICT 環境の整備では、オンライン会議システムが定着し、諸会議の運営には Google meet や Zoom の活用により効果が得られるとともに、創立記念日集会、会員大会等の会員集会をオンライン開催することができました。研修についても全国的に多数行なわれるようになり、参加の機会が増える中で、総主事会議、同盟協議会等、全国会議の対面での復活やハイブリッド方式での開催が進みました。

管理者育成について、YMCA 研究所ステップ II 研修にディレクター職 1 名を派遣することができ、参加期間中の留守を他管理者が協力して交代でカバーすることができました。

公益財団評議員並びに役員が改選となり、合わせて任意団体の常議員及び常置委員会委員が改選となりました。公益財団理事長、常務理事（執行理事）は重任され、常議員会会長、副会長に新た

な常議員が選出されました。

(2) 会員活動の活性化

創立記念日集会、会員大会やYMCA 全国関連会議・研修・集会等のオンライン開催の機会が増え、役員、スタッフの参加を奨励・支援しました。

4月の創立記念日集会では、早稲田大学名誉教授木村利人氏による「幸せなら態度で示す人生」をテーマにした講演を実施し、また、11月の北海道YMCA 会員大会では、「ウクライナの人々と共に～支援活動の現状とこれからの課題」をテーマに日本YMCA 同盟の活動報告を共有しました。さらに、世界YM・YWCA 合同祈祷週特別集会では、北海道に暮らすミャンマー青年の活動について、道内民主化運動の青年リーダーと支援者により、ミャンマーの現状と支援活動の報告の機会を作りました。12月には、前年に続いて、北海道YMCA、札幌ワイズメンズクラブ後援のピアノとチェロのチャリティーコンサートを札幌コンサートホール Kitara 小ホールで開催し、YMCA 活動支援のための寄付が献げられました。

ボランティアリーダー関連では、リーダー会活動の停滞により、全国関連のユースリーダーズフォーラムや全国YMCA リーダー研修会に参加者を派遣することが出来ませんでした。

常置委員の改選期となり、ほとんどの委員会で、女性・キリスト者の割合が目標の3割を超えることができました。一方でユースの参画が少なく、2名の選任にとどまりました。

(3) 募金の強化と支援活動の継続

年度当初より、全国と協働してウクライナ難民支援のための緊急募金に積極的に取り組みました。併せて、ベトナム教室建設のための国際協力募金も実施し、建設コストの上昇分をカバーできるだけの募金を獲得することができました。

特別プログラムの参加費に上乗せして実施している「ポジティブネット募金」ユース育成募金は、一定の募金を集めることができました。

寄附金活動のネット募金化に向けて検討作業を続けましたが、具体化できませんでした。

(4) 将来計画の作成

札幌ランチ会館建設委員会・1級建築事務所アトリエブクとの協働作業により、現在地での建て替え基本計画案の作成を進め、施設概要案をまとめることができました。一時、テナントを組み入れた計画を検討しましたが、実現しませんでした。その後、建設費の概算見積から想定以上の建設費となることが見込まれ、建て替え案から、現行会館を耐震補強してリノベーションする案を検討することとなりました。

北見ランチは、認可外保育施設と小規模保育を含めた認可施設化へ向け北見市、及びオホーツク振興局との情報交換を行い、現行施設のまま認定こども園への移行が可能となりました。2023年度中に申請手続きを進め2024年度の開設を目指します。

とかち帯広ランチは、小規模保育事業は保育士の充足によって、受入れ体制を整えることができましたが、地方における少子化の進行が進み待機児童が解消されている状況となりました。収支相償を達成できる事業構造を引き続き検討すると同時に、帯広市への活動展開を視野に、帯広市学童保育所の指定管理事業者の申請に向けて研究を進めていきます。